

令和3年度竜王町あえんぼ賞受賞者紹介

6月26日、「輝竜の郷あえんぼ賞」の表彰式が行われ、選考の結果を受けて、2団体、2個人が受賞されました。

# わがまち「竜王」を輝かせる人々



01

やさしさ

生活の安心・安全、持続可能な地域づくりに関する分野

## 畑中 芳枝 さん

はたなか・よしえ / 西出

竜王町公民館の自主活動グループ「竜王ちぎり絵サークル」代表の畑中さんは、代表を引き継いだ10年前から同サークルやおたっしや教室でちぎり絵制作の講師として指導が続けられています。通常、ちぎり絵は和紙を使って制作しますが、畑中さんが伝えられている技法は、頭の中で膨らませたイメージを古新聞紙や古雑誌、広告チラシなど身近な材料を用いて表現されるもの。「世界でただ一つの作品を作り上げることが楽しいんです」と輝く笑顔で話され、充実感、達成感を仲間と共有されています。また、作品は毎月、町公民館で展示されていて、完成品を披露することはメンバーの生きがいにもつながっているそう。さらに幅広い年代を対象に体験教室を開催し、ちぎり絵の技術伝承を通じて町民間のつながりを生み出されています。「まだまだ体が動ける間は続けたい」と頼もしい表情で意欲を示される畑中さん。魅力あふれる人柄とクリエイティブな才能で人を惹きつけ、今後も活躍が期待されます。

Yoshie Hatanaka



左) 竜王町を象徴する「龍」をあしらったちぎり絵を町へ寄贈 右) ちぎり絵のサークル活動(写真右側が畑中さん)

### point

サークルや地域のおたっしや教室などでちぎり絵制作の講師を務められ、外出が困難な方に対しては、自宅に赴き指導を行うなどちぎり絵の技術とともに創作活動の楽しさを伝承されています。

心温まる活動、他の模範となるような善行、若者が希望をかなえることを支える活動を続けておられる方・グループに対し、その活動に感謝するとともに、表彰する制度として竜王町「輝竜の郷あえんぼ賞」を設けました。

この「輝竜の郷あえんぼ賞」をきっかけに、誰もがきらりと輝くことができるまちづくりへと、さらに町民皆さんの輪が広がることを期待しています。

新 型コロナウイルスの感染拡大により私たちの日常生活は大きく変化し、先行き不透明な日々が続いています。現在はアフターコロナに向け、新しいまちづくりを創造する時期でもあります。

また、竜王町では令和3年4月から今後10年間のまちづくりの方向を定めた第六次竜王町総合計画がスタートしました。本計画では10年後のまちの将来像を「若者も暮らしたい希望かなえる輝竜の郷」心弾む新時代へのチャレンジとして、その実現に向けたまちづくりを進めていきます。

そこで、これまで広く地域を支える奉仕活動や社会に貢献する活動、人知れず地道で



# 居酒屋おいで さん

いざかや・おいで / 西川

# 04

Izakaya oide



平成29年に「居酒屋おいで」を立ち上げられ、毎月1回、公民館で自らが準備した料理を囲みながら、地域のこと、趣味のこと、自分の体調のことなどを話し合う中で地域の絆を深められてきました。団体の立ち上げ時には、お酒を飲んでボランティアをすることに反対の意見もあったそうですが、仲間同士で災害時用のかまど作りや大型ごみの搬出の代行をされるなど、今では地域住民から寄せられる期待も大きいそう。大型ごみの搬出時には「助かります。出せなかったごみを出せてスッキリしました」と喜ばれる姿が自分たちの喜びにつながり、支援活動が続けられます。「きっかけはなんでもいいんです。集まって楽しく交流する中で意見が生まれ、ボランティア活動につながっていきます」と話される皆さん。「コロナ禍で毎月集まることができませんが、支援が必要な方のための活動を続けていきたい」と意気込まれる皆さんの活躍に、ますます地域の期待が高まります。

### point

西川区内で「身近な人で日常生活の困り事を助けるしくみづくり」を検討するため、まずは仲間づくりから居酒屋おいでを立ち上げられた。地域のことなどを話し合う中で絆を深め、支援が必要な地域住民のために出来ることを考え実践されている。



左) 高齢者の大型ごみの搬出を手伝う「おいで」会員の男性たち 右) 鍋を囲み話が弾む中で、自然に地域の問題やその解決が話し合われる

# カフェ松笑 さん

かふえ・しょうしょう / 松陽台

# 02

Cafe Shousyou



平成28年3月からコミュニティカフェ「松笑」を運営され、2カ月に1度、手作りお菓子やコーヒーなどを提供するカフェを開かれています。毎回20人程度が参加されていて、高齢男性も多く、スタッフが入れるコーヒーは、「安定した味でおいしい」と好評。手作りのお菓子も季節に合わせてメニューを変え、大変喜ばれています。また、毎回庭の花をテーブルに生けてくださる参加者の計らいに、代表の下元さんは、「うれしい気遣いで逆に力をもらっ

ています」と活動の励みにもなっているそう。納涼祭ではユニークなパフォーマンスを披露しようと思いを凝らし、子どもの姿に扮して童謡を歌ったり、ドジョウすくいを披露したりして地域の皆さんに笑顔を届けられています。今後は、「家に閉じこもりがちな方にもさらに声を掛けていきたい」と、高齢者の見守り活動につながる新たな目標を掲げられています。カフェ活動で作り出される温かい空間は、地域皆さんの心のよりどころとなっています。

### point

松陽台地区でコミュニティカフェ「松笑」を運営され、地域住民が和気あいあいと談笑できる時間と空間づくりに努められるほか、自治会や福祉委員会の協力員として自主防災活動や環境整備活動を支援されている。



左) 和やかな雰囲気のカフェ 右) スタッフの演出で笑いが巻き起こる納涼祭のパフォーマンス

# 長江 美津子 さん

ながえ・みつこ / 山面

# 03

Mitsuko Nagae

前任の指導員から「活動を応援してほしい」と声を掛けられ、平成16年から長年にわたり緑の少年団の活動を支えてこられた長江さん。「子どもたちと一緒に活動したり話したりすることが楽しみで、子どもたちから元気をもらっています」と自身も楽しみながら指導が続けられています。また、活動を知った知人から苗や種を分けてもらうこともあり、励みになったり活動に生かされたりしています。「緑の募金・緑化推進」標語コンクールの標語作成をアドバイスすることもあり、「子どもたちが最優秀賞(知事賞)などを受賞したときは、自分のことのようにうれしいです」と、優しい笑みを浮かべられます。「自分が健康である限り活動を続けていきたい」と話される長江さんは、今後も活動を通じて次世代を担う子どもたちの緑を愛する心を育てていけます。

### point

緑の少年団の指導員として、子どもたちに自然を守り育てる活動を指導され、緑の少年団の育成に力を注がれている。近年は、子どもたちが竜王町タウンセンターのバスロータリーの花壇に植えた花の管理を続けられ、夏には満開に咲いた花がバス利用者や通行人の方々の目を楽しませてきた。



左) 子どもたちに指導する長江さん 右) 子どもたちのため草木染めの準備をする長江さん

